

## コニカミノルタグループ 2010年(平成22年)3月期 第1四半期決算説明会 主な質問と回答

日 時: 2009年8月6日(木)16:30~17:30

場 所: 経団連会館 国際会議場

対応者: 常務執行役 山名 昌衛、松本 泰男

### <ご留意事項>

この資料は、決算説明会にご出席になれなかった方々の便宜のため、参考として掲載しています。説明会でお話したこと全てをそのまま書き起こしたのではなく、当社の判断で簡潔にまとめたものであることをご了承ください。また、この資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があることをご了承ください。

## ■ 業績全般について

Q: グループ全体での第1四半期の社内計画との乖離について教えてください。

A: 四半期毎の計画は具体的に開示していませんが、第1四半期は主力の情報機器事業で計画未達でした。一方でオプト事業やメディカル&グラフィック事業は計画を超過達成しましたが情報機器事業の未達分を挽回するまでには至りませんでした。

Q: 業績予想を変更していないようですが、上期の利益計画の達成確度について教えてください。また前回の決算発表時にお話された構造改革による諸経費削減効果330億円の更なる積み増しは想定されているのでしょうか。

A: 情報機器事業は第1四半期で計画比未達でしたが第2四半期以降は物量確保施策により挽回はかります。またオプト事業やメディカル&グラフィック事業は第1四半期に引き続き第2四半期も計画超過達成の見通しです。現時点では上期の計画達成については厳しい状況ではありますが、通期業績予想に関しては、調達コスト・物流・IT費用を含めた追加経費削減策の実行により、当初計画の達成を目指したいと考えています。

## ■ 情報機器事業関連

Q: 情報機器事業の第1四半期業績が計画を下回った要因についてもう少し詳しく教えてください。

A: 第1四半期前半は中東や東欧市場で景況悪化に伴いカラーMFP(多機能複写機)から当社製品ラインナップが手薄なモノクロのローエンド機への回帰があった事に加え、米欧の主要地域においても値上げや販売の間接部門の効率化に注力した影響で販売が伸び悩みました。この状況を鑑みて第1四半期後半は各地域にて現行機種の販売プロモーションを実施し積極的に物量確保の施策を実行しました。その結果6月度は前月比約2割の増収、直近の7月度でも同様に販売物量を取り戻しました。

Q: オフィス分野のプリンタ事業でA4機が好調との事ですが収益の寄与度含め状況を教えてください。

A: オフィス用途のA3ローエンドMFPはダウンサイジングの傾向が顕著であり、A4機への置き換えが進行しています。当社のA4カラータンデム機はオフィスA3機同様のコンセプトで開発しており販売が好調でした。但し収益的には当第1四半期は若干の赤字で、収益の源泉となる消耗品

の売上拡大を伴って収益改善する見込みです。

Q: プロダクションプリント領域では特に商業印刷分野に注力されているようですが、既存のオフィス向けとは異なり事業拡大にあたっては相応の投資が必要なのでしょうか？

A: 当社はワールドワイドにプロダクションプリントの専任直販体制を敷いており、既に1年半以上前からサービス体制の拡充や専門性の高いセールス育成のため、社外からの新規採用含め販売体制の強化に取り組んでいます。

## ■ オプト事業関連

---

Q: オプト事業は当初計画に対し超過達成した模様ですが、事業別に状況を教えてください。

A: 最も収益改善に貢献したのはTACフィルム(液晶偏向板保護フィルム)でした。市況回復に伴いピークであった前年同期の水準まで数量が回復しました。次いで光ピックアップレンズも直前期から数量が大幅に増加しました。ガラス製ハードディスク基板も第1四半期後半より急速に受注が回復しており能力増強による対応を実施中です。なお、携帯電話向けのカメラレンズユニットに関しても昨年度第4四半期に実施した構造改革施策により採算が改善しています。

Q: TACフィルムの販売数量は計画を上振れたようですが、第2四半期以降の見通しについて教えてください、また価格やシェア動向の見通しについても教えてください。

A: 直近では台湾向けの引き合いが強まっており、第2四半期以降も堅調に推移する見通しです。またVA-TACにつきましては数量回復の半面、価格下落の影響もありました。今後は他社の動向も見据え、より競争力のある新製品の展開に注力していきます。

以上